



2018年春、2つのニュース



副院長
とよだ しげお
豊田 茂郎
(内科医師)

＜南館増築リニューアルオープンのご案内＞

平成30年5月、南館を増築し、透析室、眼科外来の拡張を行いました。また、心療内科と泌尿器科が増築部分に移転しました。以前より射水市内の透析ベッドは不足しており、射水市在住の透析患者で、富山市や高岡市の施設へ通院している人が多くあります。自宅から近くの施設で透析を受けたいという希望が多く、このたび透析ベッドを15床から25床に増床しました。また、透析への通院や家族による搬送が難しい患者があることから、透析患者の無料送迎を始めました。週3回の定期的な通院を、年間通して継続しなければならないのが透析治療ですので、安心して透析に通院していただきたいと思い、専用のワゴン車で送迎を行います。泌尿器科は以前は内科と隣接していましたが、今回、透析室の隣に移転し、透析室と泌尿器科でセンター化を図り、協力しやすい体制になりました。心療内科は、以前は健診センターの近くにありましたが、今回の増築で南館2階に移転しました。



南館増築とともに駐車場整備も完了しました

＜地域連携懇話会の開催＞

平成30年4月に、第1回真生会地域連携懇話会を開催しました。急性期病棟と地域包括ケア病棟を有し、24時間対応の在宅療養支援病院であり、またデンタルクリニック、訪問看護ステーション、有料老人ホームを併設し、急性期から在宅医療までを担う真生会にとって、地域の皆様の健康を応援することは、当院に課せられた使命です。地域包括ケアシステムを推し進めるために、周辺の医療機関等の方々と意見交換をし、多職種の連携をより深いものにする 것을目指して、今回初めての開催となりました。参加された皆様のご意見を今後の参考にさせていただきたいと思っております。有難うございました。

(次のページに特集記事があります。)

第1回真生会地域連携懇話会を開催

4月7日（土）、当院主催による初めての「地域連携懇話会」を開催いたしました。当日は射水市医師会長の木田和典先生からご挨拶を頂戴し、開業医の先生方にも多数ご参加いただきました。

今回は、当院と以前から交流のある中国・大連医科大学教授の谷照斌教授^{グ・ザオビン}に特別にお越しいただき、中国・大連の糖尿病事情を聞きました。また、舘奈保子医師（アイセンター長）による「糖尿病網膜症微細構造に観る血糖コントロールの重要性」と題した講演も行われました。

準備副責任者を務めた本藤有智医師^{もとふじゆうち}（消化器センター医師）に開催までの取り組みを聞きました。

記念すべき第1回ということで、まず会の名前を決めるところからのスタートでした。会場の決定、講演内容の検討、案内状作成など、すべてが手探りでしたが、準備メンバーが各自の役割をしっかりと果たし、徐々に全体像が固まっていきました。最後は、真生会富山病院らしい、おもてなしの生きる会にしようと皆の心が一つになったように思います。



真鍋恭弘院長より挨拶と当院の紹介

初開催ながら、当日は関係機関から大変多くのご来席を賜り、親しくお話を伺うことができました。いただいたご意見をもとに、地域に愛される病院づくりを一層進めていきたいと思えます。特筆すべきは、参加された方同士がつながり、新たな連携の場となっている光景に出会えたことです。関係機関と真生会との懇話会から一歩進んで、地域全体の懇話会としても機能したとしたら、こんなにうれしいことはありません。



谷照斌（グ・ザオビン）教授

さらに企画にあたっては、「よりよい地域包括ケアシステムの構築をめざして」というテーマのもと、当院の役割について皆で意見を出しあいました。その過程で、メンバー自身が真生会の特長をより深く理解することができ、さらに職員同士のつながりも広がりました。連携懇話会は院内外をつなぐのみならず、院内の連携を深める会でもありました。



会場は第一イン新湊（射水市）

初のケア・カフェ、名称は「ケア・カフェあい」に決定

2月27日（火）、当院5階の大講堂で初めてのケア・カフェを開催しました。ケア・カフェは、ジャズの流れるカフェのような雰囲気の中、コーヒーなどを飲みながら、4～5人のグループに分かれてテーマに沿った会話を楽しみ、席替えをして話を深め、さらに内容を全員で共有し、いろいろな意見を持ち帰ることを目



認知症をテーマに意見交換

的として、全国各地で広まっています。今回、当院で開催したケア・カフェは、射水市の医療、介護、福祉に携わる約20名の方々にお集まりいただき、前半はアロマオイルを使った体験付きのタッチング講座、後半は認知症をテーマに日頃感じていること、うれしかったこと、困っていることなどをグループで話し合いました。

ケア・カフェの名称は、当日に参加者の投票で決めることにしており、投票の結果「ケア・カフェ あい」に決まりました。「あい」には、愛、会、逢、相、哀などいろいろな漢字がありますが、いろいろな人に「出会い」、メンバーの気持ちを表出できるカフェになればとの思いで考えられたネーミングです。当日は北日本新聞の取材もあり、2月28日（水）に掲載されました。参加された方の感想を紹介いたします。

- ・触れることで癒される…実際に体験し、その通りだと感じました。
- ・カフェタイムはいろいろな事業所の方から様々な意見を聞かせてもらい良かったです。リラックスな雰囲気とても素敵な一時でした。
- ・美味しいお菓子とお茶、特に一口ケーキが良かった。

(※アンケートより)

責任者の地域医療部、濱名寛子副主任（医療ソーシャルワーカー）の感想も紹介いたします。

「院内の多職種運営メンバーと一緒に協力して、準備に関しては何もかもが初めての試みでした。努力の甲斐あって、院外から来られた多職種の方達が本当にカフェに来られたかのように、まずはアロマタッチングケアの力で癒され、その後のトークタイムも笑顔一杯楽しんでいただけたようです。私自身、苦労もありましたが、その様子を見て心からうれしく思いました。よりうれしかったこととして、今後の運営について、院外参加者の19名の内、なんと10名の方が協力しても良いと返答をくださいました。この取り組みにより、射水市の福祉・介護・医療関係者と連携強化を図っていけるのではないかと期待しています」



名称決定の瞬間



長久栄子緩和ケア認定看護師によるアロマタッチングケア講座



一口ケーキが好評

県腎友会 定期大会に劇団 TIPS 出演

6月10日（日）にとよま自遊館で行われた県腎友会の定期大会に、真生会職員で結成された「劇団 TIPS（チップス）」が出演しました。当院の透析室が拡張したこのタイミングに出演依頼をいただき、大変光栄に思います。透析患者さんが食事や運動でどのような点に気をつけたらよいかを演じ、劇中には管理栄養士からのアドバイス、また理学療法士が会場の皆さんと簡単な体操をする一幕もあり、楽しく学んでいただくことができました。



透析患者さんの日常を演じました

部署紹介：医療秘書課

主任：岡本康宏

医師の業務負担軽減を目的として、診療報酬で2008年に医師事務作業補助体制加算ができてから、今年で10年の節目を迎えました。当院の医療秘書課では、現在5名の医師事務作業補助者が在籍し、各診療科の医師の事務作業支援を行っています。

主な業務内容は下記の通りです。

- ・ 外来診療における電子カルテや検査オーダーの代行入力
- ・ 各種診断書、主治医意見書、訪問看護指示書、医療要否意見書などの文書作成補助
- ・ 退院時サマリーの作成補助
- ・ 診療情報提供書の作成補助
- ・ 臨床研究のための文献収集、研究データの統計解析、学会発表および論文執筆補助などの学術支援業務

診療情報提供書や診断書など、開業医の先生方や患者の皆様へ直接お届けする書類については、特に迅速に作成できるよう心がけています。

2018年5月の南館増築と外来診察室の拡張に伴い、今年度から眼科（アイセンター）の外来診療補助に特化した事務スタッフが新たに入職いたしました。

医師の事務作業支援を通して、真生会の医療の質の向上に貢献することを部署の行動理念とし、私達の立場で地域の皆様へ安心と満足をお届けできるよう、努力していきたくと思います。



眼科（アイセンター）を中心に、各診療科で活躍しています

JMIP（外国人患者受入れ医療機関認証制度）の認証を受けました

7月11日付で、JMIP（ジェイミップ・外国人患者受入れ医療機関認証制度）の認証を受け、富山県では第一号の認証医療機関となりました。海外からの渡航者だけでなく、日本在住者も含めたすべての外国人患者さんに、安心・安全な医療を受けていただけるよう体制を整備いたしました。対応可能な言語は、英語と中国語です。

当院と中国のつながりは4年前にさかのぼります。平成26年に中国の大連医科大学と、平成27年には瀋陽市第四人民医院と友好協力の調印式を行い、交流を深めてきました。

JMIP受審に向けてつくられたのが「国際医療支援チーム」です。チームは医師、看護師と、渉外室、健診科、PTS（患者満足）推進室のスタッフで構成されています。メンバーの一人である宮下麗^{れいな}医療通訳士（中国語・1級）は、中国の瀋陽市出身。中国との医療交流を契機に、医療を目的に中国から来院する患者さんが増えてきています。今年1月に入職した夏山ほのか医療通訳士（英語・1級）はPTS推進室のフロアマネージャーとして、外国人患者さんを受付時からサポートしています。夜間など医療通訳士不在時も、通訳タブレットを配置して対応いたします。今後も各部署と協力しながら外国人患者さんが安心・安全に受診できる環境整備を推進してまいります。



中国人患者さんの通訳をする
宮下医療通訳士